事例No.	1274
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	香川県三木町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

関係人口拡大事業（ふるさと住民とのつながりが活きる持続可能な地域づくり～）

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

香川県三木町
（関係深化型）

「関係人口拡大」事業

１.地域の概要

- 対象となる区域は、山間部の地域
- 高松市の東側に位置。人口27,200人、高齢化率29%
- ベッドタウンとして町の中心部は新興住宅地の整備が進んでいるが、町の南部の山間部は、高齢化率が65%を越えるなど、地域の衰退が著しい。
- 日本最大級の大獅子(全長：30m)４体を誇り、秋大祭の「獅子たちの里三木　まんで願。」では６万人が来場



2.事業の背景・課題

●地域の現状・解決したい課題

- 町の全体の人口は、高松市のベットタウンということもあり、緩やかな減少にとどまっているが、町域の南側である「山間部」は高齢化率が65%を越え、持続可能な地域を維持することが困難となっている。生活の利便性を求め、若い世帯が山間部から市街地に移り住む傾向が顕著であり、現在、山間部に住む子どもは、集落の人口355人に対し、中学生１名のみ

- 山間部に住む住民の地域課題に対する危機感、もしくは、危機感を持っていたとしてもどこに協力要請をすればよいか分からないという現状（関係人口の概念に対する理解醸成も図られていない）

- 新興住宅地の整備による新住民と旧住民のつながりの希薄化。地域コミュニティの衰退により、集落の自治機能も低下し集落単位で構成される本町の伝統芸能である獅子舞文化の継承も先細りな状況

●地域課題の解決・改善にあたり、関係人口に期待すること

- 山間部の集落が持つ地域課題の解決

  ①関係人口の持つ“スキル”や“想い”を具現化し、②関係人口と地域とをマッチングさせ、③関係人口の関与による地域活性化モデルを実現

- 本町の伝統芸能である獅子舞の担い手確保

  都内で活動する「東京讃岐獅子舞」を活用した①本町独自の獅子舞文化の継承、②首都圏での関係案内人としての役割を期待

3.事業の全体像

●地域の理想の姿

- 地域に継続的に関係人口が関与し、高齢化の著しい地域でも自立した集落機能を維持する
- 関係人口の概念を理解し、地域住民と関係人口が協調し合うことのできる土壌

●地域課題解決のプロセス

（2016～）出身者・ふるさと納税者等への呼びかけにより関係人口創出・拡大

↓

（2017～）関係人口へ三木町の情報発信・体験ツアーを実施し理解・関心の醸成を図る

↓

（2018～）都内で活動する「東京讃岐獅子舞」が関係案内人として取組に参画。地域課題の洗い出しを実施

↓

（2023）
集落活動の維持・継続（課題解決）

●事業の目的・ねらい

- 関係人口の登録促進
  町出身者、通勤・通学者、ふるさと納税者への広報強化
  ①SNS等を活用した登録促進
  ②ふるさと納税者へのメルマガ配信
  ③町主催イベント時等にブースを設けて登録促進活動

- 三木町への理解・関心の深化
  ①会報紙の発行
  ②体験ツアー・交流会の開催

- 関係人口のスキル・想いの可視化、まちづくり活動への参画
  ①三木町からの協力要請が可能な関係人口の把握
  ②関係人口による自主的な情報発信
  ③関係人口によるまちづくり活動への参画

- 地域課題の洗い出し、地域課題と関係人口とのマッチング

●本年度の目標

- 首都圏の関係人口数：230名
- 東京ワークショップ参加者数：30名
- 交流会等への関係人口の参加者数：50名
- 協力要請が可能な関係人口数：10名
- 地域課題の洗い出し等に協力的な集落数：１集落

４.事業の実施体制とターゲット

●事業の実施体制

- 三木町政策課が全体を管理
- PTが関係人口の登録促進、交流イベントの企画・運営などを担う
- 【ふるさと住民プロモーター】
  顔の見える関係人口、
  集落の獅子連、ふるさと納税返礼品事業者等
- 香川大学経済学部、
  三木高校総合学科

団体・組織名称	役割・責任
三木町政策課	事業の進捗管理、予算管理、庁内関係課との連絡調整
プロジェクトチーム	関係人口の登録促進、交流促進等事業の企画・運営
ふるさと住民プロモーター	交流会・体験ツアー等への参画、地域づくり活動への参画
香川大学経済学部、三木高校総合学科	産学官連携で実施中のフットパス事業を通じた地域の悩み・課題の洗い出し等に関する助言。地域課題の解決に向けた取組

●事業のターゲット層

【関係人口側】
- 町出身者、通勤・通学者
- ふるさと納税者
- 関係人口の登録者

【地域側】
- 山間部の地域住民
- ふるさと納税返礼品事業者

ターゲット層	ターゲット設定の理由（地域課題の解決にどうつながるか）
町出身者、通勤・通学者	本町への愛着・つながりを持つ者と関係性を深化させ、将来的にはまちづくり活動（地域課題解決）への参画が期待できる。
ふるさと納税者	寄附だけの関係ではなく、その先のつながりを創り出すことで、町への関心・理解の醸成を図る。
関係人口登録者	740名の登録者の内、40名程度（全体の５％）と顔の見える関係性（こちらからの協力要請に応答）を構築。地域課題とこれらの関係人口をマッチングさせ、課題解決へと結びつける。
ふるさと納税返礼品事業者	体験ツアー等に参画を求め、ふるさと納税のその先についても意思疎通を行い、事業の発展を官民一体となって推進する。

5.事業の経過

● 事業の経過

時期	取組内容	内容	工夫したこと	主な成果	問題となったこと、うまくいかなかったこと	気づき・感想、今後に向けた反省点
8月	みきのえぇもんもらえるキャンペーン	クロスワードパズルに答えて特産品をプレゼント	「獅子舞」に因んだ特産品を選定	34名が応募し10名が当選	募集期間が短かったため、想定より応募数が少なかった。	当選者にSNS発信等への協力要請をすべきであった
10月	会報紙秋号の発行	三木町の魅力を紙媒体で登録者全員に発送	取材・写真撮影、記事の校正等すべて直営で実施	現地取材により、職員の地域資源の再発見につながった	成果が見えにくく、効果検証する手立てが少ない	会報紙を楽しみにしている方もいて、メールや口頭で感想を聞けた
11月	町長・副町長お食事交流会	関係人口が提供する交流拠点を活用し交流イベントを開催	ふるさと納税返礼品事業者をプログラムに組み込んだ	参加者が地域住民や獅子連と交流でき、地場産品PRにつながった	東京讃岐獅子舞の演舞を予定していたが、地元獅子連との関係性を考慮し実現に至らず	３度目の開催なので、リピーターのマンネリ化を防ぐ必要あり
1月	まちづくり活動への参画	高校生(関係人口)の関与による地域課題解決の実現	行政の役割・関与を最小限に留めた	景観の保全、集落の活性化、イベント集客体制の確保等	入れ替わる高校生、参画した高校生のフォローアップ	課題の共有により、課題解決へ伴う行動が加速化した
2月	東京ワークショップの開催	東京圏在住者との関係性を深化するイベント	意見交換でなく町の取組への関与を前提とした議論	関係人口のニーズに応じた新たな取組への課題抽出	リピーターの参加が多く新たな参加者の発掘が課題	新たな関係性の糸口の発見、つながりを望む関係人口の発掘

６.主な取組の内容

●ターゲットへのアプローチ

- 登録促進
  ふるさと納税者へのDM配布

- 理解・関心の深化
  会報紙の発行（夏号・秋号）
  お食事交流の実施　開催日：11月４日　12名
  東京ワークショップの開催　開催日：２月１日　20名



会報紙（夏号）



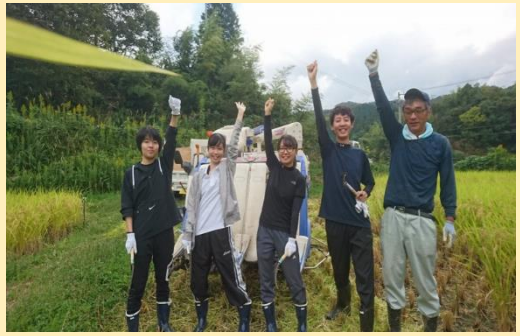
東京WS風景

●主な活動内容

＜高校生による地域活性化モデルの実現＞

- 山間部の集落に高校生（関係人口）が入り込み、地域課題の洗い出しと地域課題解決に向けた取組を実施

- 参加者：三木高校流通系列学科　６名
  プロジェクトチーム　６名



稲刈り体験



香川大学生と三木高生とのWS

7.事業の成果と課題

●本年度の目標達成状況

	目標	結果
● 首都圏の関係人口登録者	230名⇒	259名
● 東京WSの参加者	30名⇒	20名
● 交流会の参加者	50名⇒	34名
● 協力要請が可能な関係人口数	10名⇒	30名
● 地域課題の洗い出しに協力する集落	1集落⇒	1集落

●募集に関する成果・課題

- 首都圏の関係人口登録者数
  ふるさと納税者へのDM配布により登録者数増

- 東京WSの参加者
  2018年度より参加者数は増加
  ふるさと納税人気ブロガーの参加
  課題①2018年度の参加者同士の横のつながりにより
  リピーターの参加が多く見られた。今後は、新た
  な関係人口の参画を期待

- 交流会の参加者
  交流会開催回数減により参加者数も減
  課題①関係人口のニーズに応じたプログラムの提供
  ②体験ツアー等に参加しやすくなるような情報発信
  （地域別ツアープランの提供等）

●つながりの構築に関する成果・課題

- 東京WSの参加者
  2018年度より参加者数は増加
  課題①WS以外でのつながり方の発掘

- 協力要請が可能な関係人口数
  課題①まちづくり活動へ参画しているものの関係人口と
  いう概念に縛られたくない者の把握

- 地域課題の洗い出しに協力する集落
  課題①地域住民の課題に対する共通認識
  課題②地域課題と関係人口のマッチングが成立し、
  課題解決に結びついた後のフォローアップ

●事業の遂行体制・役割分担での成果・課題

- PT（関係人口創出プロジェクトチーム）
  外部への委託に頼らず意欲ある若手職員で構成されるPTが直営で企画・運営することで、事業の持続可能性を確保

- 事業の財源確保
  ふるさと納税の使途の選択肢に関係人口創出・拡大事業を設け、関係人口由来の財源による自立を検討

８.今後に向けて

●継続的な体制づくりの成果・課題

- 三木町側
  PTの直営での企画・運営によるノウハウの蓄積や体験ツアー等に参画するふるさと納税返礼品事業者・集落の獅子連との協力体制の構築等、事業の持続可能性を確保
- 関係人口側
  関係人口の中核と期待する「東京讃岐獅子舞」による都内での活動、集落の地域住民と協働して地域課題解決へと結びつけた自立的な関係人口など本モデル事業での成果を継続的に発展させる

●その他の成果・課題等

- 地域側
  地域課題解決の糸口として、高校生の参画による成果が見られたが、参画するメンバーが毎年変わることや卒業後の地域との関わり等、フォローアップの仕組みづくりが課題
- 首都圏側
  「東京讃岐獅子舞」を関係案内人として首都圏での窓口としての役割を担っていただく一方、登録者の３割を超える他の首都圏在住の関係人口をどのように取組へ参画させるかが検討事項

- 本事業で得られた「顔の見える」関係人口の皆さま


関係人口の交流拠点を提供


地域課題に向き合う高校生


東京讃岐獅子舞


関係人口が集うFBページの創設者